

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県五ヶ瀬町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	ド訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
3,901	3,771	第2種該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

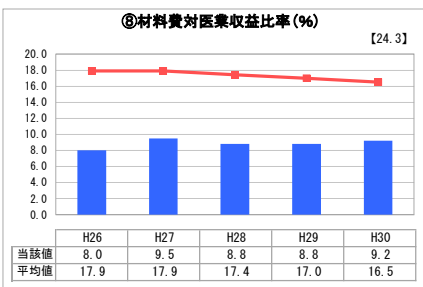
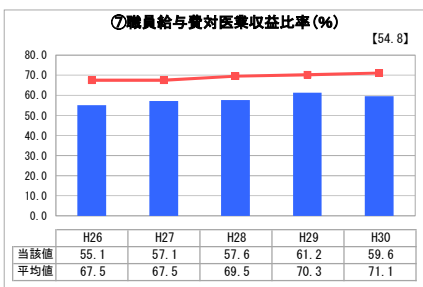
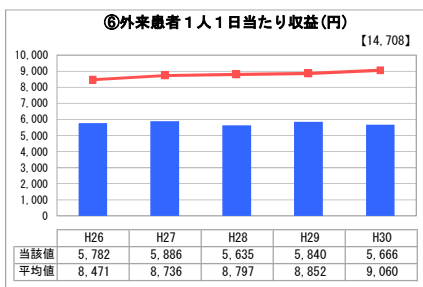
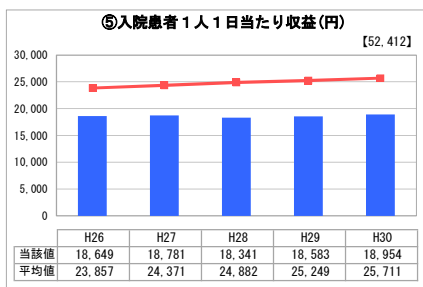
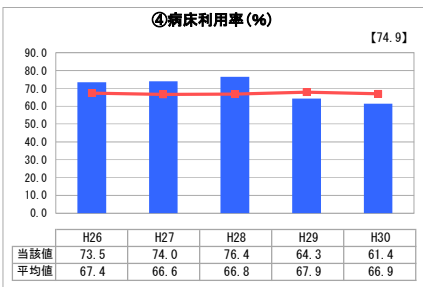
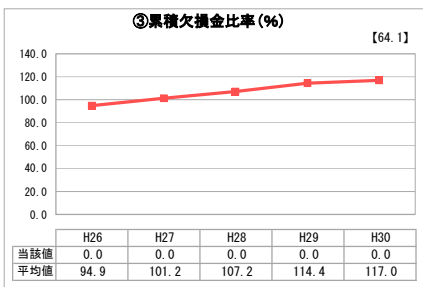
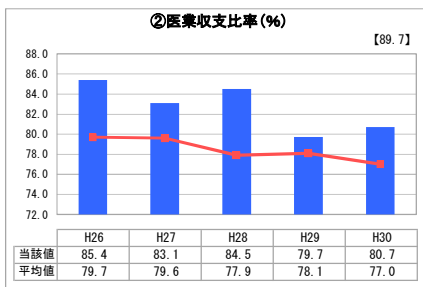
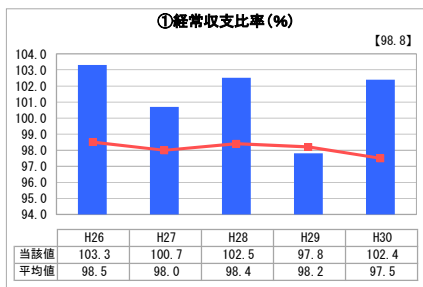
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
36	18	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	54
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
36	18	54

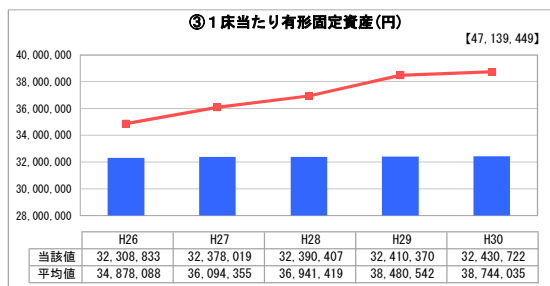
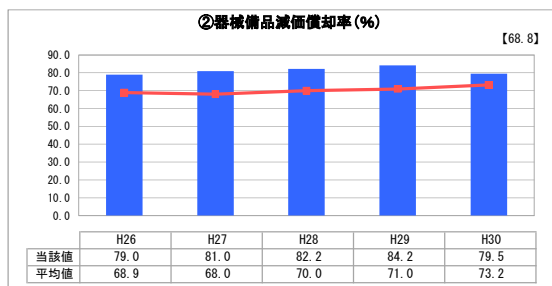
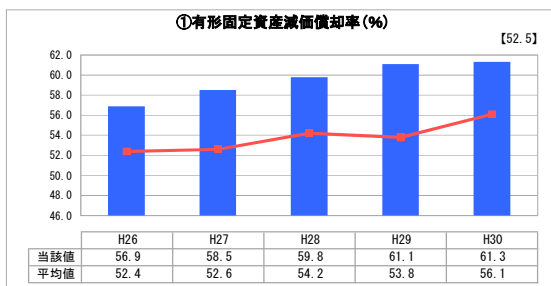
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は中山間地域のへき地にある五ヶ瀬町において唯一の病院である。町の中心部に位置し、片道30分以上かけて通院している町民もおり、町民のかりつけ病院として地域医療の根幹を担っている。一般病床36床、介護療養病床18床を有し、常勤医師2名で診療を行っている。一般医療の提供はもとより、訪問診療・訪問リハビリ、人間ドックや事業所健診、各種予防接種等も行って、町民の健康維持・増進において大きな役割を担っている。また、近隣病院へは町の中心から車で15～20分程度かかることから、高齢者等の交通弱者にとって、なくてはならない病院である。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支・医業収支比率ともに昨年度を上回ったが、一般会計からの繰り入れによるものである。病床利用率は2年連続で類似病院平均値（以下「平均値」という。）を下回り、入院収益の減少に直結している。入院・外来1人1日当たり収益は5年連続で平均値を大きく下回っている。職員給与費対医業収益比率は、これまで臨時職員等を含めた最少限の職員数での運営を行ってきたものによる。材料費対医業収益比率は、平均値を大きく下回っていることから継続して材料費の軽減に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、器械備品減価償却率ともに5年連続して平均値を上回っている。当院は新築移転してから約20年が経過して老朽化が進んでおり、器械備品についても移転当時に新規購入したものが多く、経年劣化が進んでおり更新時期を迎えていると考えられる。1床当たり有形固定資産については平均値を大きく下回っている。これは有形固定資産・器械備品への投資が少ないことによるが、耐用年数以上に使用しているためであると考えられる。しかしながら、医療器械は精密器械で患者の健康と生命に直結するため、今後は計画的な更新が必要である。

全体総括

一般会計からの繰入金により健全な状況を保っているが、入院・外来収益が低いことがうかがえた。今後の人口減少を考えると入院患者の増加は厳しいため、外来やリハビリテーション部門で収益を上げていく対策を早急に検討しなければならない。施設・器械備品ともに老朽化・経年劣化が進み、修繕や更新に多くの費用を要している。計画的に更新することが重要で、そのために現状を把握しておくことが必要である。当院は地域になくはならない医療機関で、引き続き必要とされる機能を備え、町民の健康維持増進に参与したい。地域医療構想の中で近隣病院との連携を検討中であり、現在の外来診療体制は維持・充実しつつ、病床数の削減や介護医療院への転換を含めて検討していく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。